

第3回花巻市保健福祉総合計画策定委員会 議事録

1. 開催日時・場所

日時 令和4年9月22日（木）午後1時

場所 花巻市役所本館3階委員会

2. 出席者

策定委員

富澤正一、影山一男、小野寺俊美、菊池初江、高橋照幸、峯村諭、中館一郎、高橋きぬ代、多田建造、佐藤洋子、菊池靖代、三井信義、打田修子、藤本祥子（14名）

欠席：小原幸子委員

市側

今井岳彦健康福祉部長、佐藤多恵子地域福祉課長、佐藤ひとみ長寿福祉課長、菊池司障がい福祉課長、長山義博健康づくり課長、大川尚子こども課長、赤坂秀樹地域福祉課長補佐、藤原美紗子地域福祉課福祉企画係長、伊藤大樹地域福祉課主任（9名）

3. 会議

- ・影山委員長より委員会開催にあたり挨拶

4. 協議

- ・花巻市保健福祉総合計画（案）について

これまでいただいた意見の計画（案）への反映状況について、資料2に基づき、赤坂地域福祉課長補佐より説明。

- ・反映状況への質疑

（小野寺俊美委員）特別支援教育について、子供たちは「スペ」という言葉を使うことがある。「スペ」はスペシャル（特別）という意味。言われている子はわからないが、差別的に使用されることがある。特別という表現には特別な扱いなんだと、そのように受け取られる場合もある。

（三井信義委員）小野寺委員の発言に関連して、特別支援教育の充実という言葉、岩手日報の論説で取り上げられていたが、国連の障がい者権利委員会からの勧告として、日本は特別支援の区分をどんどん増やしている。精神障害の長期入院や強制入院についても他の国に比べると圧倒的に多い。このようなことはインクルーシブ（インクルージョン）の考え方と相反するのではないか。という非常に厳しい勧告が出ている。教育現場を変えるということはなかなか難しいことではあるが、ただ、他の子供たちと分けて多様な特別な支援をするということであれば逆行してしまう可能性があると思う。「特別支援の充実」という言葉では納まっているが、その言葉をもう少し吟味していく必要があると考える。

（影山一男委員長）ノーマライゼーションの部分の表現を修正したほうが良いということ

か？それとも全体の表現の見直した方が良いのか？

(三井信義委員) ただ、特別支援教育という言葉に換わる言葉はなかなか簡単には見つからない。例えば精神薄弱をどうするかという問題で知的障害に落ち着いた。じゃあ知的障害でいいのかというと、もっともっと考えなければいけない。完璧な言葉はなかなかみつからないと思う。「特別支援教育の充実」という言葉だけで片付けるのではなく、みんなでもっと議論するべきだと思う。市レベルで何とかできる問題ではなく、県、国レベルでも考えていく問題。今回の総合計画の文言については変える必要はないが、そのような問題をはらんでいることを皆さんで共有してほしい。

(影山一男委員長) 特別支援教育の更なる充実を図るといったことは、今後、具体的な計画が示されるということで良いか？

(今井健康福祉部長) 本計画は骨子となる計画のため、具体的な計画については教育振興基本計画等において検討していくこととなると思われる。

(影山一男委員長) 本委員会より教育委員会へ、そのような意見があったと伝達してください。

(高橋きぬ代委員) P85 の就学前教育の充実について就学前教育について、「幼保小接続期のカリキュラム」、「幼保こ小接続期のカリキュラム」について意図的に分けて使っていると思うが違いはなにか？または新旧のものなのか。更に保育園・幼稚園・小学校とありますが、幼稚園は395人、認定こども園が715人、保育所が1522人、それに今多くの施設があり、小規模保育所が58人、事業所内保育所が6人、認可外保育施設が50人であり、これらの施設を含めて表現するのであれば施設を限定した表記ではなく「保育園等」としてはどうか。

(大川こども課長) ご指摘のありましたカリキュラムについては同じもの。従来は「保幼小」としていたが、認定こども園が増えてきたことから現在は「保幼小」と表現しているので、そのように修正させていただく。「カリキュラム」の活用については市内全ての保育施設に周知を行っているので、限定した表現ではなく、すべての保育施設が含まれた表現となるよう修正したい。

(小野寺俊美委員) 本計画では再犯防止推進計画はどこの部分となるのか？

(赤坂地域福祉課長補佐) 本計画に包含されている差再犯防止推進計画については第4章の1、「支えあい・見守りの体制づくりの推進」となり、具体的には(3)犯罪の防止および再犯防止に向けた取り組みの推進となる。(今井健康福祉部長) 第1章の2において、本計画における地域福祉計画に「成年後見利用促進計画」、「再犯防止推進計画」を含むとしており、具体的には第4章がそれにあたることとしている。

(小野寺俊美委員) 再犯防止推進計画の具体的な記載はどこになるのか？

(今井健康福祉部長) 先ほど説明したとおり、計画(案)P16からとなります。

(小野寺俊美委員) 全国的に刑務所から出所してきた人の再犯率は55%、保護司がかかわった人の再犯率は35%。出所者は社会的な孤立があると思う。ひとつの犯罪が、被害

者のみだけでなく被害者家族、加害者の家族の生活を壊している事実がある。

(今井健康福祉部長) 委員が発言されたことは大変重要なこと。計画として記載する部分と実際の対応とする部分とある。詳細すべてを計画に記載することはむずかしい。具体的な対応等については保護司会などと相談しながら進めさせていただきたいと思います。

(高橋きぬ代委員) 花巻市の総合計画との関係性はどのようになっているのか。一番上の計画はまちづくり総合計画、その下にどのような計画がぶら下がっているのか？

(赤坂地域福祉課長補佐) まちづくり総合計画が市の最上位計画、本計画はまちづくり総合計画の保健福祉部門の骨子をまとめた計画であり、本計画の下に高齢者・障がい者、健康づくりなどの個別計画がある。

(高橋きぬ代委員) 障がいや再犯防止など、福祉に関係するものはこの計画が大きな柱となることで良いか。他の計画と重複していないことで良いか。

(今井健康福祉部長) そのとおり、福祉における基本となるが、教育部分などについては教育基本計画などと一部重複する部分はある。この計画ですべて完結するものではない。

(佐藤洋子委員) 本計画がしっかり実行されることを期待している。

(高橋照幸委員) 本計画には、随所に地域共生社会、共に生きること。共に生きるためには様々な分野で共通理解を深め進める必要がある。社会福祉協議会としても市の計画に基づいて地域福祉活動計画を策定しなければならない。各地区ごとの特徴を生かしながら市社会福祉協議会として活動を展開していく必要がある。最終的には地域の皆様の協力が必要となるため、委員としても最後まで関わっていければ良いと思う。

(影山一男委員長) 本計画がきちんと実行されるよう、みんなで見ていく必要があると思います。

(影山一男委員長) 本日いただいた意見や細かい字句等の修正、レイアウトの調整については委員長と事務局で検討し、委員長一任として調整し最終案とすることとしてよろしいか。

→全員異議なし

5. その他

特になし